

# 奈良教育大学における「総合的な学習の時間の指導法」の授業展開

— 2021 年度実施における成果と課題 —

赤沢早人

(奈良教育大学教育学部)

Teaching Plan and Practice of Teaching Methods in the Period for Integrated Studies in Nara University of Education:  
Achievements and Problems of 2021 School Year Practice

Hayato AKAZAWA

(Faculty of Education, Nara University of Education)

**要旨：**奈良教育大学では、2021（令和3）年度から、3年生配当科目として「総合的な学習の時間の指導法」を実施している。奈良教育大学では、「教職課程コアカリキュラム」にもとづき「総合的な学習の時間の指導法」の到達目標を3点示し、8回（1単位）の授業を実施している。授業は、①総合的な学習の時間の「初期イメージの形成」、②「総合的な学習の時間」の指導にかかる基本的な考え方の習得、③「総合的な学習の時間」の単元設計という展開を計画し、リアルタイム（対面、非対面）とオンデマンドを組み合わせて実施した。受講生へのアンケートの結果、到達目標の達成に対しては総じて高い肯定的回答を得られたが、相対的に見ると「具体的な指導や評価のあり方」への回答が低く、内容上の改善が必要である。また、オンデマンド学修については、おおむね肯定的な回答を得られているものの、15%程度の受講生が困難を感じていることが示されたので、方法上の改善が必要であることが分かった。

**キーワード：**総合的な学習の時間の指導法 Teaching Methods in the Period for Integrated Studies  
授業展開 Teaching Plan and Practice  
教職課程コアカリキュラム Core Curriculum for Teacher Training Course in Japan

## 1. はじめに

本論の目的は、2021（令和3）年度に奈良教育大学（以下、本学と記載）で実施された「総合的な学習の時間の指導法」の授業展開について詳述するとともに、授業実施上の成果と課題を明らかにすることである。

本学では、2017（平成29）年7月の教育職員免許法施行規則の改正を受けて、2019（平成31）年度より新たな教職科目として「総合的な学習の時間の指導法」を開設した。本科目は3年生後期を標準履修時期としたため、実際に授業を実施したのは、2021（令和3）年度からである。

授業は、本学の専任教授である赤沢早人と、本学の名誉教授であり、関西大学教授である小柳和喜雄の2名が担当した。受講対象者の280名程度を2クラスに分割し、全8回（1単位）のそれぞれ4回ずつを分担して授業を行うオムニバス形式を採っている。

以下、本学における「総合的な学習の時間の指導法」の教職課程上の位置づけ、2021（令和3）年度の授業計画および実際に展開した授業の内容・方法を述べ、成果と課題について明らかにする。

## 2. 教職課程上の位置づけ

### 2.1. 「総合的な学習の時間の指導法」の新設

周知の通り、「総合的な学習の時間の指導法」は、平成31年度より全国の教職課程に設置された新たな教職科目である。渡邊均（2020）や鈴木隆司（2021）も述べている通り、1998（平成10）年の学習指導要領改訂で初等・中等教育に「総合的な学習の時間」が設置されて以来、教職課程における「総合的な学習の時間」の位置づけが20年近く不明瞭であった状況を改善するという意味では、意義ある改正である。ただ、すでに全国の教職課程には、新たな教職科目を設置する教育課程上の余地が少ない。本学でも同様の状況であるから、2018（平成30）年度のいわゆる教職課程の再課程認定の際には、「総合的な学習の時間の指導法」の設置に向けて、既存の教職課程との微妙な調整を行わなければならなかった。

### 2.2. 科目内容の調整

先述の通り、全国の教職課程では、20年近くに渡って「総合的な学習の時間」の位置づけが不明瞭であったわけだが、本学では予てより「カリキュラム論」（教職科目、2年生後期配当、必修、2単位）、旧施行規則「教育課程の意義及び編成の方法」（区分）のなかで、一定時間を割いて「総合的な学習の時間」の設置経緯や教育課程上の位置づけ、目標や内容、実践事例などを扱ってきた。新たに「総合的な学習の時間の指導法」を新設する

に伴い、その内容を移行するとともに、「カリキュラム論」では新たに、2017（平成29）年に示された「教職課程コアカリキュラム」の内容に即した内容を展開することにした。

### 2.3. 単位数

本学の教職課程も各種の改革要求のなかですでにオーバーロード状態にあった。このため、新設科目に2単位を割り当てることは困難な状況であった。そこで、これまでは2単位で実施していた「特別活動の理論と方法」を1単位（8コマ）に減じ、生み出した1単位（8コマ）において「総合的な学習の時間の指導法」を実施することにした。

### 2.4. 配当期

本学では原則として2,3年次に「教科の指導法に関する科目」を配置している。また、卒業要件である「教育実習」を3年次（原則として6月期か9月期）に配当している。方法・技術面においてすでに多数の蓄積がある各教科の指導に比べて、「総合的な学習の時間」の指導は相当程度に応用的であり、さらに開発的でもある。このため、新設する「総合的な学習の時間の指導法」は、原則として「教科の指導法に関する科目」や「教育実習」をおおむね履修済みである3年生後期に配当することにした。

なお、本学では「道德教育の理論と方法」および「特別活動の理論と方法」も同時期に配当している。

### 2.5. 担当教員

担当は、教育課程および教育方法に研究・授業実施業績のある赤沢（教育連携講座）と小柳（教職開発講座）とが務めることになった。なお、小柳は課程認定後、本学を転出したが、引き続き非常勤講師として科目を担当している。

## 3. 授業計画

### 3.1. 授業の到達目標

授業の到達目標は次の3点である。「教職課程コアカリキュラム」に基づき、小・中・高校における「総合的な学習の時間」の実施に関する基礎的・基本的な項目を総合的に理解できるように配慮している。

- 1) 総合的な学習の時間が設置されている意義について、目標・内容・方法の各観点から端的に説明することが出来る。
- 2) 総合的な学習の時間の単元計画を策定することが出来る
- 3) 総合的な学習の時間の具体的な指導や評価の在り方について、事例を挙げて説明することが出来る。

### 3.2. 授業概要

シラバスでは、授業の概要を以下のように示している。

表1 授業概要（令和3年度）

「総合的な学習の時間」（高等学校においては「総合的な探究の時間」）は、現代日本の教育課程（カリキュラム）において重要な位置を占めている。各教科、道德、特別活動、そして小学校にあっては外国語活動という各領域での学びを踏まえ、横断的・総合的な「探究課題」に子どもたちを向かわせることを通じて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができる資質・能力の育成を図ることが求められている。

これからの教師は、教科指導と生徒・生活指導のための力量にとどまらず、子どもたちの学びを設計し、促進し、方向づけることができる力量を持つ必要がある。「特定の学習内容を、わかりやすく説明して、理解させる」という指導観を見直し、次代の子どもたちを育むための教師の在り方を探究しなければならない。

本科目では、「総合的な学習の時間」の指導計画の立て方や具体的な指導の仕方、そして学習活動の評価（みとり）の方法等に関する知識・技能を身につけることを通じて、唯一の正解が存在しないような課題について子どもたちが立ち向かっていけるための指導の在り方について考えを深めることを目的とする。

先に述べたとおり、本学では「カリキュラム論」において「総合的な学習の時間」について扱ってきたわけであるが、あくまでも「教育課程上の位置づけ」にとどまるものであった。新設された本科目が「指導法」に位置付けられていることに鑑み、実際に指導計画を立てたり、学習指導の具体について検討したり、評価方法について考えたりすることを通じて、各教科における指導との異同について考えを深めることまでをねらうものになっている。

### 3.3. 授業計画（8回）

1単位科目であるため、授業は全8回構成である。

表2 授業計画（2021年度）

第1回：【赤沢】総合的な学習の時間の意義と役割
第2回：【小柳】学習指導要領における総合的な学習の時間の位置づけ
第3回：【小柳】総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント（指導計画と実施計画）
第4回：【小柳】総合的な学習の時間の単元計画の作成
第5回：【小柳】総合的な学習の時間の指導「理解させる指導」からの転換
第6回：【赤沢】探究的な学習の過程の構成（1）課題設定・情報収集
第7回：【赤沢】探究的な学習の過程の構成（2）整理分析・まとめ表現
第8回：【赤沢】総合的な学習の時間における学習評価

大別すると、小柳（第2回～5回）が「理論編」を、赤沢（第1、6～8回）が「実践編」を、それぞれ担当した。大まかな流れとしては、

- ① 「総合的な学習の時間」を児童生徒の立場で学んだ経験等をもとに、その学習指導の在り方についての「初期イメージ」を形成し（第1回、担当：赤沢）

- ② 学習指導要領の記述等をもとに、「総合的な学習の時間」の指導にかかる基本的な考え方を習得したうえで（第2～5回、担当：小柳）
- ③ 実際に「総合的な学習の時間」の単元設計を行い、「初期イメージ」の変容をはかるとともに、学校現場で「総合的な学習の時間」の指導を計画する際の構えを作る（第6～8回、担当：赤沢）

という展開を計画した。

次に、教職課程コアカリキュラムと上述の8回の関連について述べる。2018（平成30）年度の課程認定受審の際に作成した対応表は以下のとおりである。

表3 教職課程コアカリキュラム「総合的な学習の時間の指導法」の目標群

全体目標（略）	
(1) 総合的な学習の時間の意義と原理	
一般目標（略）	
到達目標	
1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。	
(2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成	
一般目標（略）	
到達目標	
1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。	
2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。	
(3) 総合的な学習の時間の指導と評価	
一般目標（略）	
到達目標	
1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。	
2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。	

表4 教職コアカリキュラム対応表

項目 到達目標 ／授業回	(1)		(2)		(3)	
	1)	2)	1)	2)	1)	2)
1	◎					
2		◎				
3			◎			
4				◎		
5					○	
6					○	
7					○	
8						◎

基本的には、一つの到達目標を1回の授業で達成するように計画するとともに、教職コアカリキュラムの目標群の順序を全8回授業の展開に見立てて、「意義と原

理」（第1、2回授業）→「指導計画」（第3、4回授業）→「指導と評価」（第5～8回）と構成した。以上のことから明らかのように、全8回という限られた授業回数ではあるが、総合的な学習の時間を学校現場において指導するための最低限の事項は網羅している。

#### 4. 授業の実際

それでは、2021（令和3）年度に実際に行った授業の内容・方法について、順に整理していくことにしよう。

##### 4.1. 「初期イメージ」の形成（第1回、赤沢）

第1回授業は、新型コロナウイルス感染症対策の観点からZoomを用いた非対面双方向形式で実施した。授業資料等は、Moodleをベースにした本学のLMS上で提示した。

第1回授業の主眼は、総合的な学習の時間に関する「初期イメージ」を形成することである。鈴木隆司（2021）や市川洋子（2020）も言うように、教職課程で学ぶ学生であっても、自分自身が児童生徒時代に学んできた総合的な学習の時間の学習イメージを明確に持っているとは言い難い。このため、総合的な学習の時間の具体的な設計に入る前に、受講生が学習者として経験してきた（はずの）総合的な学習の時間の学習イメージを明確にさせることにした。全8回の授業は、この「初期イメージ」を契機とし、曖昧模糊とした「なんでもありの時間」から、明確な目標・内容・方法・評価という一連の教育課程構造を有した教育時間であることを認識できることをめざすわけである。

そこで、第1回の授業では、次のような活動を組織した。

- ① 総合的な学習の時間の児童生徒用教材映像（NHK for school「ドスルコスル」の第1回およびNHK高校講座「総合的な探究の時間」第1回のビデオクリップ）を実際に見る。
- ② ZOOMのブレイクアウトルーム機能で班ごとの協議を行い、自分たちの児童生徒時代の学習のイメージと教材映像の内容とを比較しながら、総合的な学習の時間の「ポイント」を5つに整理する。
- ③ 班ごとまとめた「ポイント」をPadletを用いて全体で整理・共有する。

受講生からは様々な「ポイント」が示されたが、それらを分類すると次のようなキーワードに整理できた。

目標（ゴール）、内容（テーマ）、カリキュラム（プロセス）、指導・学習方法、主体的活動、興味関心、人との関わり

こうして確認した「ポイント」をもとに、授業の終末段階では、④本授業を通して自分で開発していきたい総合的な学習の時間の1単元を決める、という活動を行った。受講生からは、小学校3年生から高校3年生まで多岐にわたる単元が示された。なお、ここでの単元はあくまで仮決定であり、本授業の展開において任意に変更可能であることを伝えて授業を終えた。

#### 4.2. 「総合的な学習の時間」の指導にかかる基本的な考え方の習得（第2～5回、小柳）

第2～5回の授業は、総合的な学習の時間の指導に求められる基本的な知識の習得を主眼にし、LMSを用いたオンデマンド形式で実施した。

LMS上では、

- ① 授業のハンドアウト
- ② 授業動画3編（1編につき15～30分程度、全体で各回60分程度）
- ③ ワークシート（授業に関する「3つの問い」への回答、A4用紙1枚分）

の3点が毎回示された。授業時間になると公開され、1週間以内に授業動画とハンドアウトをもとに学修し、課題を提出するというルーチンで4回分の授業を行った。

なお、ワークシートに回答する「3つの問い」は、ハンドアウトには示されていない。実際に授業動画を視聴し、授業中に提示される問いを把握しないと、ワークシートに回答できない仕組みをとっている。

表5 第2回授業の「3つの問い」

Q1	1998年告示～2017年告示の間、3回の学習指導要領の改訂で、総合的な学習の時間はどのように変わってきましたか。ここまでの資料に基づき、明らかになったことをまとめてください。
Q2	総合的な学習の時間は、各教科学習、特別活動、道徳教育とどのような関係にありますか。総合的な学習の時間の目標などをもとに、ここまでの資料を参考に、あきらかになったことをまとめてください。
Q3	総合的な学習の時間の成果を生かしながら、指摘されている課題を克服し、この時間を通じて児童生徒に目指す資質・能力を育成していくことについて考えてみましょう。どのような点に気をつけて、また工夫をして、学校で総合的な学習の時間を実践していこうと考えますか？

第2～5回の授業で扱われた内容は、次の通りである。

表6 第2～5回で扱われた項目

回	コアカリ	授業内容
2	(1) 2)	学習指導要領、教育課程、カリキュラム、標準授業時数、設置の経緯、教科との関係性、目標、内容、資質・能力、「見方・考え方」、探究的な学習の過程、学校外活動との関連、実施事例、実施状況、成果と課題
3	(2) 1)	カリキュラム・マネジメント、教育課程編成、全体計画、目標設定、探究課題、資質・能力、ESD、事例、留意事項
4	(2) 2)	単元構想、単元計画、指導計画、評価計画、学習評価、アセスメント、探究的な学習の過程と単元展開、PDCA、シングルループとダブルループ、ユニバーサルデザイン、認知・非認知
5	(3) 1)	探究的な学習（学び）、PBL、GIGA スケール構想、STEAM 教育、実社会の課題解決学習の事例、「未来の教室」における学びの姿

表3の整理から明らかなように、第2～5回の4回分のすべてにおいて、教職課程コアカリキュラムが規定する到達目標を満たしているばかりではなく、さらに派生的な内容に言及されている。総合的な学習の時間の指導法に求められる目標・内容を十分満たしているといえよう。

#### 4.3. 「総合的な学習の時間」の単元設計（第6～8回、赤沢）

第6回からは再び赤沢が担当した。当初は対面で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、第1回と同様、Zoomを用いた非対面双方向形式で実施した。ただ、第8回授業については、作成した単元計画の発表・交流の活動を行うため、「原則として対面」とし、十分に感染症対策を講じた講義室で実施した。

第6～8回の授業展開は、次のとおりである。

表7 第6～8回で扱われた項目

回	コアカリ	授業内容
6	(3) 1)	課題：「課題の設定」および「情報の収集」の場面の指導計画を作成しよう 1. 理論的なおさえ（復習） ・探究（的な学習）の過程 ・探究的な学習の各過程におけるポイント ・探究課題と学習事項（例） 2. 「課題の設定」場面での指導のあり方 3. 「情報の収集」場面での指導のあり方
7	(3) 1)	課題：「整理・分析」および「まとめ・表現」の場面の指導計画を作成しよう 1. 前回作成のワークシートの交流 2. 「整理・分析」場面での指導のあり方 3. 「まとめ・表現」場面での指導のあり方 4. 演習
8	(3) 2)	課題：総合的な学習の時間の単元計画を完成しよう 1. 前回作成のワークシートの交流 2. 新学習指導要領における新しい学習評価 3. 総合的な学習（探究）の時間における新しい学習評価 4. 児童生徒の学習状況の見取り 5. 学習評価から教育課程評価へ 6. 最終課題の作成

第6～8回の3回を通じて受講生がチャレンジする総合的な学習の時間の単元設計の全体像を図1に示す。これは第8回で課す最終課題として、第6回開始時に公表しているものである。受講生は、第8回での本課題の完成を目指して、第6回では探究的な学習の過程の「課題の設定」「情報の収集」場面の指導計画を立て、第7回では同様に「整理・分析」「まとめ・表現」場面の指導計画を立てる。そして、第8回にそれらを総合し、さらに総合的な学習の時間の目標と評価の観点を加えて、単元としての全体性を持たせるという流れになっている。

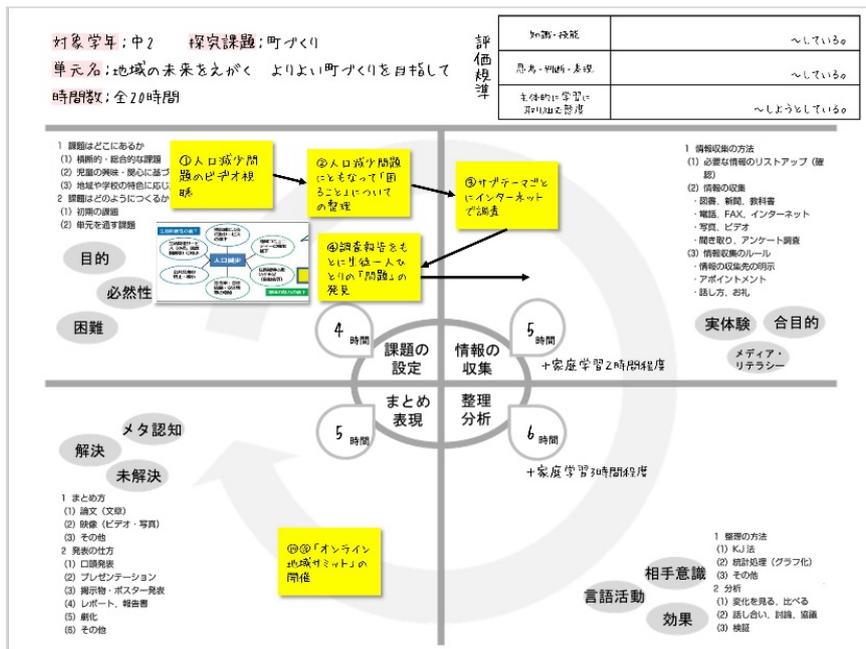


図1 授業最終課題（単元設計図）

5. 成果と課題

第8回授業終了直後（2021年12月）に、受講生に対してWebアンケートを実施した（N=200、回答率73%）。質問項目と回答結果は表8のとおりである。

総じて見ると、90%を越える受講生が、授業の到達目標の達成について肯定的回答をしている（到達目標1：95.5%、到達目標2：93.5%、到達目標3：90.5%）。しいて言うならば、到達目標3の回答が相対的に低いので、次年度以降の授業では、具体的な指導や評価のあり方の理解をさらに深める工夫を重ねていく必要がある。

また、第2～5回のオンデマンド学修についても、84.5%の肯定的回答を得られた。なお15%程度の学生

が困難を感じていると言える。2021年度の授業においては、LMSでの科目登録の際のトラブルなど、一部でオンデマンド学修の円滑な履修を妨げる出来事があったことも事実であるので、改善を図る必要がある。

最後に、授業全体の満足度は、86.0%という回答結果であった。当該年度の本学授業評価アンケートにおける授業満足度が前期85.2%、後期90.6%であったので、他の授業科目と比べて極端に低いわけではないが、改善の余地は十分にある。当座、満足度90%の獲得を目指して、授業内容・方法をブラッシュアップしていく必要があるだろう。

参考文献

市川洋子（2020）、「教職科目『総合的な学習の時間の指導法』の試行による成果と課題」、敬愛大学国際研究、第33号、pp.59-74。  
 鈴木隆司（2021）、「大学生の『総合的な学習の時間』に対するイメージと指導法の授業づくり—教員養成課程における学びと現実社会とのつながり—」、千葉大学教育学部研究紀要、第69巻、pp.109-118。  
 渡邊均（2020）、「『総合的な学習の時間』に関する研究Ⅱ—『総合演習』から『総合的な学習の時間の指導法』へ—」、西南学院大学人間科学論集、第16巻第1号、pp.265-284。

表8 授業アンケート結果

Q1：どの学校段階の単元計画を策定しましたか？ 小学校：78 (39.0%) 中学校：74 (37.0%) 高校：48 (24.0%)	Q4：総合的な学習の時間の具体的な指導や評価のあり方について理解できましたか？（到達目標3） できた 43 (21.5%) ある程度できた 138 (69.0%) あまりできなかった 16 (8.0%) できなかった 3 (1.5%)
Q2：総合的な学習の時間が設置されている意義について理解できましたか？（到達目標1） できた 53 (26.5%) ある程度できた 138 (69.0%) あまりできなかった 7 (3.5%) できなかった 2 (1.0%)	Q5：オンデマンド学修（第2回から第5回）について、学修教材の視聴や課題作成は適切にできましたか。 できた 76 (38.0%) ある程度できた 93 (46.5%) あまりできなかった 23 (11.5%) できなかった 8 (4.0%)
Q3：総合的な学習の時間の単元計画を策定することができましたか？（到達目標2） できた 52 (26.0%) ある程度できた 135 (67.5%) あまりできなかった 11 (5.5%) できなかった 2 (1.0%)	Q6：本授業での学びについて、どの程度満足しましたか？ 満足した 51 (25.5%) ある程度満足した 121 (60.5%) あまり満足しなかった 18 (9.0%) 満足しなかった 10 (5.0%)